

ダムWGにおける検討状況

第1回ダムWG会議 (2004.7.11開催) 結果報告

2004.7.15 庶務発信

開催日時 :	2004年7月11日(日) 13:30~19:00
場 所 :	キャンパスプラザ京都 第1会議室
参加者数 :	WGメンバー委員 24名、WGメンバー外委員 4名 河川管理者 30名

1 主要な決定事項

- 今本博健委員が先の運営会議でリーダーとして承認されたことが報告された。
- ダムWGに、以下の3つのサブWGをおく。ダムWGは、ダム建設の必要性、代替案との比較などをを行い、ダム建設の是非について審議する。
【丹生・大戸川・天ヶ瀬ダムWG】、【川上ダムWG】、【余野川ダムWG】
- ダムWGにコアWGをおく。コアWGは、ダムWGの運営について審議するとともに、サブWGの審議を基本として、ダムWGが委員会に答申する原案を審議する。
- サブWGおよびコアWGのメンバーは「別紙」のとおり。
- ダムWGは基本的に「公開」で行う。検討結果も公表していく。
- ダムWGは検討結果を12月中に報告書としてまとめることを目指して作業を進める。

2 審議の概要

庶務から資料1「ダムワーキンググループに係わる経過」を用いて経過説明がなされた後、審議に入った。

①ダムWGの運営方法について

- ※ 今本リーダーより「ダムWGの運営について」(今本メモ)を用いてダムWGの提案がなされた。
- ※ 「ダムワーキンググループの運営に係わる検討事項」(資料2)について庶務から説明がなされた。

今本リーダーより、ダムWG会議は傍聴者の受け入れが難しい面が多いのではないかとの指摘があったが、メンバーから受け入れを望む声が多く、基本的に「対応」することとなった(第1回、第2回は傍聴者無し)。主要な意見は以下のとおり。

- WG会議は、事務的な面から傍聴者の受け入れは難しいのではないか。密室性を避けるために、検討内容はできるだけ速やかに公開していただきたい。
- 何らかの方法で、傍聴を可能にした方が良い。整理券の配布等で人数制限をしてもいいから、傍聴受け入れを考えて欲しい。
- 作業や勉強の時などは傍聴者を入れなくてもよいのではないか。

作業スケジュールとしては、現在の委員が任期のうちに結論を出したいという考え方から、10月頃までにはまとまった成果をつくり、12月中には報告書としてまとめることになった。

その他、「ダムWGの運営について」をベースに、「主要な決定事項」のとおり決定された。

②川上ダムに係る報告(資料3-2をもとに)

- ※ 河川管理者(木津川上流河川事務所)より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり(例示)。

- ・ 資料 p 17 の表で、黄色の網掛け部分のみ氾濫量が大きく減少するのはなぜか。
←次回までに説明できるようにしたい。
- ・ 治水計画の目標を何にするのか明確にする必要がある。被害の「解消」ではなく、「軽減」としたのであるから、目標の設定がないと議論できないのではないか。
- ・ 河川工学の専門家だけではないので、みんながわかるように説明して欲しい。
- ・ ハイドログラフで特定の洪水を前提としているが、その洪水を選んだ理由を教えて欲しい。
- ・ 県の管理部分は現況を前提としているのか。テクニカルタームはやさしく説明して欲しい。
- ・ 天端から余裕高を引いたところで破損するという前提是おかしいのではないか。その前提がおかしいと、計算の意味がなくなる。また、なぜに河道掘削をしないのか。前提が問題である。 等

③余野川ダムに係る報告（資料 4-2 をもとに）

※ 河川管理者（猪名川総合工事事務所等）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 被害の「軽減」の目標を決める必要がある。たとえば、床上浸水をしないようにするとか、浸水頻度を軽減するとか。あとは、経済的な検討も重要である。
- ・ 前回の説明の内容と今回の説明が異なるのではないか。説明のたびに違うような気がする。流量で説明したり、容量で説明したりしており、全体としての比較がわかりにくい。
- ・ 事業量をある程度示してもらわないと困る。お金の有効活用という面では問題ではないか。
←治水効果、事業費等を総合的に評価する必要がある。説明させていただきたい。
- ・ 数字が出てきても、以前の検討から何も進んでいないように思う。きっちり検討したものをしてもらわないと、キャッチボールにならない。

○一庫ダムの説明

- ・ 放流の操作規則について、新旧の違いをもっと説明して欲しい。差があまりにもあり過ぎる。
- ・ 一庫ダムでは、一定量放流するよりも、流入量に応じて放流量を増やした方が良いのではないか。
- ・ p 45 の 2 つのケースとは何か。何が前提で、何が結果なのかよくわからない。他のところも、全部そのような書き方になっている。
- ・ 高度な情報技術を使ったコントロールの方法があるのでないか。
- ・ 「できない」という答え方はいかがなものか。ここまででははっきり言えるが、こういう点については「どうでしょうか？」という問い合わせが重要だ。
- ・ 水利権等の問題をはじめに考えておいた方がよい。緊急渴水状態では、水を融通する必要がある。
- ・ パーツは出ているが、パーツの組み合わせによる論理構成になっていない。

○川上ダム・代替案の検討、水需要計画の見直し

- ・ 現状を共有しようということでやっているが、それぞれの担当部署で差があるよう感じた。
- ・ 利水計画があまり進んでいない。従来の検討の繰り返しのような気がする。次回はきっちりしたものを出して欲しい。

以上

第2回ダムWG会議（2004.7.18開催）結果報告		2004.7.23 庶務発信
開催日時：	2004年7月18日（日）13:30～19:30	
場所：	キャンパスプラザ京都 第1会議室	
参加者数：	WGメンバー委員 19名、WGメンバー外委員 3名 河川管理者 29名	
1 主要な決定事項		
<ul style="list-style-type: none"> ・ダムWGでは、周辺の調査結果は省略して、直接、本論に入るようとする。 ・具体的には、最初に「ダムの目的、必要性の検討」、次いで「代替案についてあらゆる角度から検討」、最後に「比較検討」を行う。 ・次回のダムWG（7月25日、13:30～18:00）の開催前の10:00から、委員のみでの意見交換の場を設ける。 		
2 審議の概要		
①調査検討に係る報告		
○琵琶湖環境について（資料1-1、1-2、1-3をもとに）		
<p>※河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。</p> <p>主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の話は充実しているが、3ダムが関係する琵琶湖関連の調査としては、ダムとの関連性は明確でない。 ←現時点で、琵琶湖がどう変化しているのかと、どの原因を幅広に検討している段階で、今後は総合的に評価していく予定である。 ・水位の急速な低下の問題は、理解している。そのところは省略して本論に入るようにして欲しい。 ←重要との認識があれば、直接的な部分から進められる。 		
<p>※説明の途中で、サブリーダーの3名と河川管理者で、全体の進め方について相談した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談結果であるが、河川管理者の考え方とダムWGの考え方方に、多少、乖離があると感じた。 ←これから全力で検討を進めたい。今時点の検討結果をご報告して、キャッチボールをさせて欲しいという趣旨である。 ・スケジュールをきちんと示されれば、安心して聞くことができる。管理者はどう考えるのか。 ←どの時期にどのくらいのものが出せるのかは、書けるようにしたい。 		
○丹生ダムに係る報告（資料2-1、2-2をもとに）		
<p>※河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。</p> <p>主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高時川は琵琶湖に影響がないというのは、乱暴である。影響があるが、観察できないということではないか。 ・高時川は、ダムがあっても計画高水位を超えると堤防強化が最優先されないと、住民不安は解消されず、このことは強調して言うべきである。 ←治水に関しては、滋賀県とともに考えているところで、流域住民の安全を守るために、コスト面、時間的にみて何が効果的かを考えていきたい。 ・利水については、疑問に思っている。 		

○大戸川ダムに係る報告（資料3-1,3-2をもとに）

※河川管理者（大戸川ダム工事事務所）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・前の委員会と同じ説明だった。問題は大戸川をどうするかである。

←他に5つの項目の検討が残っている。琵琶湖の水位低下抑制のための大戸川ダムからの放流による効果と、その自然環境に及ぼす影響については、丹生ダムとともに検討する。大戸川ダムは大戸川下流や淀川下流の治水にも有効であると考えており、治水について引き続き検討していく。また、利水については、他のダムとともに検討していく。

- ・前回の説明でも、ダムからの放流量を150トン/sとしているが、これは限界の放流量として生きているのか。

←日吉ダムでは、従前に10～40年に1回の洪水に対する最適な放流量が検討されており、それに基づいて現行の操作が行われている。

○天ヶ瀬ダム再開発に係る報告（資料4-1,4-2をもとに）

※河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。

- ・琵琶湖の水位が2.9m高くなるということは、何もいらないということか。また、それぞれの対策は、独立の対策なのか。

←ダム本体の放流能力も変化するが、だめな場合は、トンネル方式の放水路も必要となる。基本的には、使えるものは全て使って多く流したい。

- ・本日のWGの検討内容は、琵琶湖総合開発との関連があるが、新たにもう1回、治水、利水をやり直そうというように聞こえる。

- ・琵琶湖の水位操作の問題を解決しないといけないのでないか。

←水位の前提を変えると、様々なものが白紙となる。見直す必要があれば議論すべきと考えるが、まずは、現状をベースとして琵琶湖の環境改善の方向性と改善策について検討を行っている。

- ・予備放流は難しいという結論があるなど、反発を感じている。

②今後の検討の進め方について

※委員長より、委員からの提案を踏まえて以下の提案がなされ、この方向で検討することとなった。

- ・最初に「ダムの目的、必要性の検討」、次いで「代替案についてあらゆる角度から検討」、最後に「比較検討」を行ってはどうか。

その他、主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・委員が変わるために結論を出さないといけないので。

←調査検討を一生懸命やっているところで、継続的にキャッチボールさせて欲しい。

- ・委員長からスケジュールの話があったが、検討結果が出ていなくてもダムWGとして意見を出すのか。

←目的に対しては検討できる。代替案は、検討結果が出た範囲でやらないといけない。サブWGを実施してからダムWGという手順を考えると、全体の意見交換まで進むかどうか。

←次回の午前中に相談させて欲しい。3つのグループが、それぞれ検討して欲しい。

以上

第3回ダムWG会議（2004.7.25開催）結果報告		2004.7.28 執務発信		
開催日時：	2004年7月25日（日）13：30～18：00			
場所：	梅田センタービル 18階会議室H			
参加者数：	WGメンバー委員17名、WGメンバー外委員5名、河川管理者35名 一般傍聴者（マスコミ含む）41名			
1 審議の概要				
<p>※冒頭、今本リーダーより、第1回、第2回のダムWG会議は開催日程が急であったことや会場確保の関係から公開ではなったこと、また、今後は公開を原則とするが、会場の関係で人数制限をせざるを得ない場合があることにつき了承願いたい旨の発言があった。</p>				
<p>①⑤ダムの目的について</p> <p>※資料3-1をもとに、河川管理者より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余野川ダムを満水にしたときに、下流の水位がどの程度下がるのか等の情報を示して欲しい。 ←次の機会に示したい。 ・大戸川ダムで、基礎案では日吉ダムへの利水容量の振り替えが有効と記述されているが、データが示されていないのでわからない。 ←浸水区域や浸水戸数などでは有効性が認められなかった。基礎案の変更が必要。 ・量的な情報（数字）を出してもらわないと、議論にならない。 				
<p>②利水に関する調査検討の報告</p> <p>※資料1-1～3をもとに、河川管理者より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-2の5ページ「水供給の実力低下」はどのように試算しているのか。 ←近年は渴水が頻発しており、1/10の渴水に対して公称能力通りに供給できていない。資料1-3の13ページ参照（昭和59年で75%程度の実力）。 ・平成3年頃までは供給量が取水量を上回っているのはどういうことか。 ←取水制限をかなりの頻度でやってきている。 ・今回はセットで報告されており、わかり易かった。利水や安全度の面で、1/10は確保すべきであり、「実力の低下」についてはもう一度検討する必要がある。また、府県はダムの撤退を表明しているが、国土交通省はどう考えているのか。利水については、琵琶湖の問題が絡んでいる。-150～200まで下げないと利水安全性を確保できないとはっきり言うべき。節水対策は水道事業者の経営を圧迫。河川管理者は、節水が水道事業者の経営にインセンティブを与えるようにするべき。 ←府県のダム撤退は最終的な決定ではない。協議して欲しいということ。包括的な検討が必要と言っている。利水に関しては、-150まで下げても十分な容量を確保できず、深刻な問題。水道事業者にインセンティブを与えるような方策を今は持ち合っていない。環境を守るということで節水を呼びかけている。 ・どこまで「受忍」できるか。治水の面でも、利水の面でも、1/10を1/5にするようなことは、今の日本の社会では難しい。今のうちに手を打つ必要がある。 ←1/10というのは、先進国の中では良い数字ではないが、とりあえず目指しているところ。 ・近畿地方整備局の節水に向けた取り組みは英断と評価。はしごをはずすような消極的意見は問題。 ・大阪府からの申し出に対して、「包括的に検討」というのは、ごまかしのようにも聞こえる。 ・琵琶湖の放流量を有効に活用するためのバランスの良い操作管理が必要。 				

←琵琶湖の水位と維持流量は取り合いの関係。維持流量は削減してきた経緯がある。

③質問等に対する補足説明

○川上ダム計画に関する調査検討（中間報告）---- 第1回ダムWGにおける質問に対する回答

※資料3-4をもとに、河川管理者（木津川上流河川事務所）より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・堤防強化をして堤防は壊れないというのが今回の計画の大前提。破堤は前提を崩すことになる。
- ・スーパー堤防の議論には、実現までの時間と金のデータが必要。30年間で見事にできるのであればダムは不要だが、僅かしかできないのではないか。それが示されるまでは、議論できない。
←どこを補強するべきか検討中。以前、つかみの数字は出しているので、次回、提示したい。
- ・堤防は治水の根幹。新しい工法に対してあまりに臆病であった。この委員会は技術的なことについて検討できる場ではないが、ダムか堤防かという選択に対してはきちんと検討したい。
- ・越流すると破堤することになるのか、河川管理者の考えを聞きたい。

←時間の問題で、間違いなく破堤すると考えられる。

- ・長期的には、危険性の高い地域からは、移動することも必要ではないか。

○余野川ダム計画に関する調査検討（中間報告）---- 補足説明

※資料3-5をもとに、河川管理者（猪名川総合開発工事事務所）より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・嵩上げで、どのくらいの費用がかかるのか。
←2mで160億円、10mで1080億円等（道路の付け替え等含む一式）。
- ・最も効果があるのは銀橋上流の開削、その次がダムの嵩上げだと思う。開削を3段階程度に分けて、さらに余野川ダムをつくる、つくらない、さらにダムの嵩上げのマトリックスをつくって整理して欲しい。個人的には余野川ダムの効果は小さいと思う。
- ・下流の浸水被害も考慮が必要。
- ・銀橋の狭さく部は景観（渓谷美）にも配慮が必要。景観に係わる資料も欲しい。
- ・一庫ダムの変更の一番大きな理由は何であったのか。下流の河川対策は手を付けず、上流のダムで治水対策をしようという方針に切り替えたのか。

←もともとを考えていた操作では下流の対策がなく効果が不十分。中小の降雨でも効果があるよう
にということで考えている。

2 一般傍聴者からの意見

主要な意見は以下のとおり（例示）。

- ・治水に関して代替案があればダムは不要だ。利水需要の抑制は生活スタイルを変えていくようなものにしてほしい。需要を抑制する視点で、府県などにも上手に圧力をかけることも必要。
- ・ポンプなども含めた耐震性の確認が必要。
- ・福井の集中豪雨の犠牲者に対し、流域委員会で黙とうしたりカンパを募ることはできないか。
- ・福岡市の1人当たり水利用は292リットル。大阪市は519リットル。この格差を深く認識すべき。

3 その他

- ・参考資料2をもとに、河川管理者から福井豪雨災害についての説明がなされた。

第4回ダムWG会議（2004.8.19開催）結果報告		2004.8.23 執務発信
開催日時：	2004年8月19日（木）10：00～17：30	
場 所：	梅田センタービル 18階 会議室H	
参加者数：	WGメンバー委員20名、WGメンバー外委員5名、河川管理者32名 一般傍聴者（マスコミ含む）81名	
1 審議の概要		
※冒頭、今本リーダーより、本日のWGの進め方について説明が行われた。		
<ul style="list-style-type: none"> これまでの河川管理者の説明は、ダム建設の是非を審議するためには、「適切ではない」との意見があった。そこで本日は、河川管理者に各ダムの目的について説明をうかがい、その目的が妥当なのかどうかを議論したい。ついで、妥当と判断される目的について、その目的をダム以外で達成する方法（代替案）の説明をうかがい、検討するべき代替案とそうでない代替案の判別を議論したい。 		
<p>①琵琶湖の水位操作について：河川管理者より資料1-2を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見等は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 琵琶湖沿岸の浸水被害は、ゆっくりと進行するため、人命被害は少ないと思われる。浸水被害だけなら、金銭的な補償やかさ上げで解決できないか。 ←琵琶湖周辺の行政関係者や学識経験者によって、水害に強い地域づくり協議会を組織し、県とも協同して、積極的な説明や議論をはじめたところだ（河川管理者）。 		
<ul style="list-style-type: none"> 洗堰からの放流増量以外の方法で、どうやって琵琶湖沿岸の浸水被害を軽減させるかが重要だ。何か対策はないのか。 ←ハードによる代替案として、ポンプによる排水を検討しているが、ポンプだけで浸水被害をなくすことはできない。まずは、琵琶湖の水位を低下させることが有効だと思っている（河川管理者）。 		
<ul style="list-style-type: none"> 水位操作規則制定の前後で、琵琶湖の水位変動に大きな違いが見られる。委員会は、自然に近い水位変動への見直しを提言している。河川管理者は水位操作規則の見直しを検討する必要がある。 →操作規則制定前後の大きな違いは、夏期制限水位（6/16に-20cm）への移行にある。この水位操作によって安全度が向上したことを前提に土地利用が行われている。これを元に戻すには、私権の制限とも絡んで、理解が得られるかが論点となる。（河川管理者）。 		
<ul style="list-style-type: none"> →制限水位を上げた場合に生じる治水上のデメリットに関して、洪水時に実際に何が起きるのか等、もっとしっかりと説明しなければならないと思っている（河川管理者）。 		
<ul style="list-style-type: none"> 制限水位への移行を後らせる試行によって、コイ科の産卵は多少回復したが、ヨシ帯の減少が回復するわけではないので、稚魚が成育していない。やはり、制限水位を±0程度にする必要がある。ダムの補給水によっても、ドラステイックには改善されないだろう。 		
<p>②堤防補強について：河川管理者より資料1-1を参考にして説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパー堤防やアーマー化が完成すれば、浸水被害は越水分だけとなるため、基本的にはこの方向で進めていくべきだろう。もちろん、水位が上がらないようにする整備（ダム等）も平行していくべきだが、コストや効果を考えて、優先順位を考えなければならない。どちらか一方だけという話 		

ではない。

- ・堤防強化は、破堤による壊滅的な被害の回避を目的としており、ダムと関連させて考へるものではない。また、前回提供頂いた堤防強化のコストも大きく見積もりすぎではないか。河川管理者には、堤防強化に関して、再度、資料を提供して頂きたい。
- ・「ダムと堤防を組み合わせていく」という説明のように思えたが、それは委員会の意見と大きく食い違っている。

→言葉の使い方が悪かった。「ダムと堤防を組み合わせるから、ダムが必要」と言いたかったのではない。河川によって状況が違うため、いろいろな方法について検討しなければならないという趣旨だった（河川管理者）。

③大戸川ダムと天ヶ瀬ダム再開発の下流への治水効果について：河川管理者より資料1-4を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・ダムによる流量の変化について説明されたが、これでは全く話にならない。大切なのは、流量の変化ではなく、ダムによって被害がどのように変化するかということである。
- ・ダムによる被害軽減効果やクリアすべき条件、代替案等を示しながら、ダムが本当に必要なのかどうかを説明してほしい。

→現在のところ、流量だけの説明にとどまっている。被害の軽減効果については、現在も検討中であり、結果が出れば、説明をしたい（河川管理者）。

④天ヶ瀬ダム再開発の琵琶湖沿岸への治水効果について：河川管理者より資料1-5を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・洗堰の現在のままというのが条件なのかどうか、確認したい。

→洗堰は現在のまま、検討した。現在のままでは、琵琶湖水位+2.9mでなければ、 $1500\text{m}^3/\text{s}$ 流れないと、鹿跳渓谷等を整備すれば、より低い水位で $1500\text{m}^3/\text{s}$ を流すことができる（河川管理者）。

⑤「琵琶湖の水位低下抑制と異常渴水時の緊急水の補給」および「琵琶湖水位と丹生ダムの貯水池運用の関係」について：河川管理者より資料1-8-1、資料1-3を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・洪水期の水位低下抑制のためだけに、丹生ダムの 9400万 m^3 を使うというシミュレーションだったと思うが、利水目的を考慮するとどうなるのか。今後も検討を続けてほしい。
- ・高度な降雨予測によって、洗堰からの放流をコントロールして、水位低下を抑制できないのか。

→今年の気象予報も外れている。河川管理者が求めているのは、10mm単位の精度で何mmの雨がどこに降るかという予測である（河川管理者）。

- ・ダムに治水効果があるのはわかっている。議論すべきは、各ダムに高度の必要性があるかどうかであり、それを満たすための代替案の検討である。この説明がなければ、議論にならない。

⑥川上ダムについて：河川管理者より資料1-6を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・浸水地域が水田の場合は、大きな被害ではない。また、服部川と柘植川の合流の左岸は昔から浸水常襲地帯であり、ここに進出してきた住宅や工場は浸水を覚悟しているのではないか。今後の説明

では、浸水深や浸水地域だけではなく、被害ポテンシャルを考慮した説明をお願いしたい。

- ・川上ダムによって低下する水位が 10cm 程度なら、ダムの効果はあまりないように思える。10cm なら河床掘削でも対応できるのではないか。

→昭和 28 年の降雨の場合は、10cm 程度の水位低下効果しかないが、より大きな降雨に対しては、より大きな効果を発揮すると思っている（河川管理者）。

⑦余野川ダムについて：河川管理者より資料 1-7 を用いて説明が行われた後、意見交換が行われた。

主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・一庫ダムの利水容量の振り替え先が、余野川ダム以外だとしても、本日の検討結果は同じだと考えて良いか。

→利水容量の振り替え先としては、余野川ダム以外にも、大阪府営水道が考えられる。この場合でも、検討結果は変わらない（河川管理者）。

- ・資料 1-7 を見る限り、多田地区の被害が相当軽減されているのがわかるが、さらに、猪名川本川の流量も併せて示してほしい。余野川の集水面積は非常に小さいにもかかわらず、なぜ余野川ダムにこれほどの効果があるのか、疑問を感じている。

⑧その他：本日のすべての説明について、意見交換が行われた。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・現在の調査検討の進捗状況では、10 月中にダムWG のとりまとめは作成できない。ダム問題を積み残したまま、次の委員会に移行してよいのか。次回の委員会では、ダムWG の検討スケジュールの変更について、提案したいと思っている。
- ・河川管理者は、検討すべき課題をすべて平等に検討すべきではない。主と従を区別し、検討の重み付けをして、議論を進めた方がよい。
- ・「利水の精査確認が出てこなかった場合は、新規開発はゼロという前提で議論を進める」等の方針を決めておいた方がよいだろう。また、治水に関しては、対象とする洪水を決めておいた方がよい。環境については、ダムによるプラスとマイナスの影響をすべて出して、議論していくべきだろう。

2 一般傍聴者からの意見：主要な意見は以下のとおり（例示）。

- ・川上ダムは、引き延ばし降雨を対象に検討をしているが、委員会は、既往最大の降雨を対象にした浸水被害の軽減を提言している。よって、河川管理者は、引き延ばし降雨を対象にして検討を進めるべきではない。また、流域対応による浸水被害の軽減を考えてほしい。
- ・河川管理者は、岩倉峡の疎通能力を算出していないにも関わらず、今回の検討結果を提供している。これはおかしい。岩倉峡の疎通能力を私が試算した結果（約 4224m³/s）を参考資料 1 で提出している。これは基本高水流量を上回っている。
- ・ダムに関する結論は、この委員会で出してほしい。ダムWG には一般住民も注目を集めている。結論の先送りは避けてほしい。